

アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 2021上級行政官会合(SOM)の結果概要について

令和3年8月24日
内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時 : 2021年6月30日(水) 11:00-13:05
2. 開催場所 : オンライン会合(東京会場:フクラシアオアゾ丸の内)
3. 主催者 : 内閣府
4. 参加国 : オーストラリア、バングラデシュ、中国、カザフスタン、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム (12ヶ国) 及び原子力エネルギー協力国際フォーラム(IFNEC)
5. 我が国の主な出席者 :

覺道 崇文	内閣府大臣官房審議官
萩原 貞洋	文部科学省研究開発局原子力課廃炉技術開発企画官
和田 智明	FNCA(日本)コーディネーター
玉田 正男	FNCA(日本)アドバイザー

6. 会議の概要 :

FNCA 上級行政官会合(SOM)は、FNCA 参加国の原子力科学担当省庁・機関の局長級が出席し、FNCA の最上位会合である大臣級会合(今年度は12月、東京開催予定)及びスタディ・パネル(今年度は2022年3月東京開催予定)の予備的議論を行う場として位置づけられている。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症による国際渡航制限から、オンライン形式で会合を行った。大臣級会合とスタディ・パネルのトピックスの決定、FNCA プレークスルー賞の選考経過と受賞者の確認等を中心に討議が行われた。概要は以下の通り。また今会合ではIFNECより事務局(OECD/NEA所掌)の技術代表、グロリア・クオン女史より“Nuclear Energy in addressing De-carbonization and our Clean Energy Future <Challenge and Opportunity>”のテーマでプレゼンテーションが行われ IFNEC の活動方針や状況について、関連情報の共有が図られた。

<概要>

(1) 2020年度大臣級会合(MLM2020)評価と2021年度大臣級会合(MLM2021)

① MLM2020の評価

MLM2020は2020年12月にオンライン形式で行われたが、円卓会議セッションを省く等、アジェンダと会合時間を大幅に縮小して行った為に、参加者間での討議時間が十分に取れなかった。一方、FNCA の会合としては初めてIAEA 事務局長が参加し、現事務局長、ラファエル・グロッシー氏が基調講演を行ったことが特記される。

② MLM2021の開催と開催形式について

MLM2021は本来モンゴルでの開催であるが、今年度(MLM2021)と来年度(MLM2022)のホスト順を入れ替え、今年度のホストを日本、実会合開催の可能性がより高い来年度(MLM2022)をモ

ンゴルのホストとすることをモンゴル-日本間で調整し、加盟国に発表して合意を得た。会合は12月に東京、三田共用会議所にて行う(本案)。ただし、新型コロナウイルス感染症による国際渡航制限等の状況に照らし、実会合形式での開催可否を10月第1週にホスト国(日本)が判断する。実会合を断念する場合でも12月にオンライン形式の会合を開催する(代案)。代案では、会合時間、アジェンダともに縮減を検討する。

③ 円卓会議トピックと基調講演

昨年度の MLM2020では、オンライン開催が決定した時点で円卓会議がアジェンダから省かれており、そのため使われなかった円卓会議トピックとその会議構成(案)を、そのまま今年度の会合に流用することが提案されて合意が得られた。トピックは「研究炉、加速器の利用とその関連技術の応用拡大」(Enhancement of the Utilization of Research Reactors, Accelerators and the Applications of their related technology)となる。

トピックを”State Policy”、“Advanced Technology”、“RI Production”という3つの観点から、タイ、日本、オーストラリアが分担してそれぞれリードスピーチを行い、全体で討議する予定。

また円卓会議トピックに関連する会合全体の基調講演については、関連機関、組織からの講演者の選択、招聘を事務局が調整する。

(2) 2020年度スタディ・パネル(SP2021)評価と2021年度スタディ・パネル(SP2022)

① SP2021評価

2021年3月、オンライン形式で2日間にわたって行われたが、オンライン形式での会合運営(特にタイムマネジメント)に難しさがあった。一方、講演者の高度な知見と豊富な研究データに基づいた講演内容は参加者から高く評価された。

② SP2022のトピック

事前に行った加盟国への調査では、“原子力に対する国民信頼の構築(Public Trust Building)”と“原子力防災(Nuclear Emergency Preparedness and Responses)”の2トピックスへの関心が高く、今回話し合いにより、“Public Trust Building”を 2022年3月に予定するスタディ・パネルのトピックとすることが決定された。本トピックでの会合の構成案は、事務局が作成して加盟国へ提示し、意見を調整して固める。また基調講演者については事務局が選択、調整する。

(3) FNCA の活動と機能評価

新型コロナウイルス禍の中にあっても、FNCA の基本の方針に沿った活動が継続されており、実施中の7プロジェクトの活動については全加盟国から強いサポートが得られている。機能に関しては、加盟国間や関連国際機関、組織との情報交換や知見の共有の要請が基本的に強い。近年、PR 機能への要請が強まる傾向が認められる。

(4) FNCA ブレークスルー賞 受賞者決定

従来の FNCA 賞では今年度で5回目の授賞となるはずであったが、各国のプロジェクト活動が新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を大きく受けた結果、各国チーム間のプロジェクト活動にバラツキが生じた。この状況下で授賞のための公平な評価は難しいとの判断から、今年度の FNCA 賞の授賞を見送り、今年度限りの特別賞として、“FNCA ブレークスルー賞”を設けて評価、選抜を行った。FNCA 賞が各年度のプロジェクト活動を各国プロジェクトチーム単位で評価し表彰するものであるのに対して、この賞は2016年から2021年にわたる期間内で、最も優れた研究成果を出した個人研究者を表彰するものとした。選考を本年5月より開始し、各国コーディネーターによる最終投票の結果を受け、今回の SOM 会合にて下記の通り4名 (Best Researcher1名 +Excellent Researchers3名)を決定した。Best Researcher に対しては今年度の MLM2021に招待して表彰式を行い、授賞記念のプレゼンテーション機会を与える。

Best Researcher:

Dr Phiriyatorn Suwanmala, of Thailand
(Radiation Processing & Polymer Modification Project)

Excellent Researchers:

Dr.Sobri Bin Hussein, Malaysia
(Mutation Breeding Project),

Dr Angel T. Bautista VII, the Philippines
(Climate Change Science Research Project), and

Dr Mizuno Hideyuki, Japan
(Radiation Oncology Project)

以上